

1 生乳生産量と用途別処理量

(1) 生乳生産量

— 生乳の生産量は0.6%増加 —

生乳生産量は737万9,234 tで、前年に比べ4万4,970 t (0.6%) 増加した。

これは、ここ数年、猛暑等の影響により減少傾向となっていたが、北海道の生産量が回復したことによる。

図1 生乳生産量の推移 (全国)

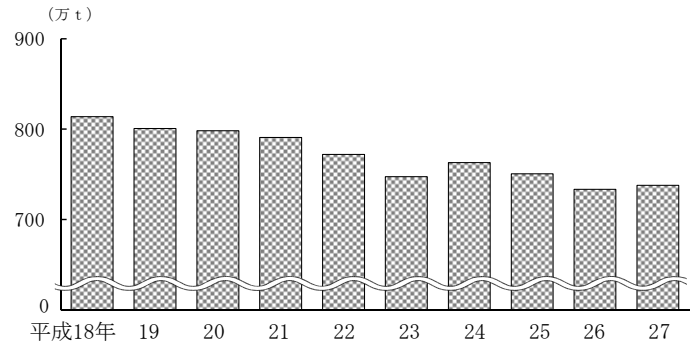


表1 生乳生産量

年次	生乳生産量			対前年比		
	全国	北海道	都府県	全国	北海道	都府県
	t	t	t	%	%	%
平成26年	7,334,264	3,810,742	3,523,522	97.7	98.2	97.2
27	7,379,234	3,881,200	3,498,034	100.6	101.8	99.3

(2) 全国農業地域別生乳生産量

— 北海道の生乳生産量シェアは52.6% —

全国農業地域別の生乳生産量をみると、北海道が388万1,200 t (全国に占める割合52.6%) で最も多く、次いで関東が104万6,924 t (同14.2%)、九州が66万2,658 t (同9.0%) の順となっている。

図2 生乳生産量シェア (全国農業地域別)

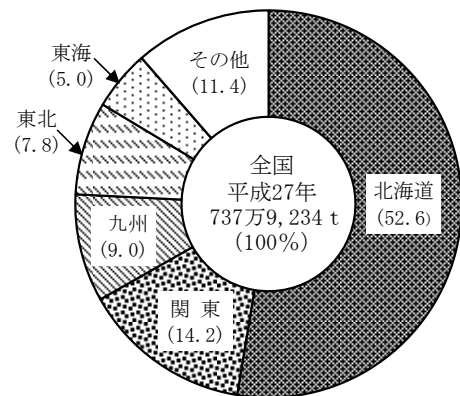


表2 生乳生産量 (全国農業地域別)

単位: t

年次	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成26年	7,334,264	3,810,742	580,036	94,663	1,055,210	125,910	379,425	186,455	289,866	128,227	656,933	26,797
27	7,379,234	3,881,200	576,382	91,743	1,046,924	124,574	368,579	182,156	291,144	127,192	662,658	26,682
対前年比 (%)	100.6	101.8	99.4	96.9	99.2	98.9	97.1	97.7	100.4	99.2	100.9	99.6

(3) 用途別処理量

— 牛乳等向け及び乳製品向け処理量はそれぞれ0.6%、0.8%増加 —

生乳の用途別処理量をみると、牛乳等向け処理量は393万2,861t、乳製品向け処理量は338万9,838tで、前年に比べそれぞれ2万1,921t（0.6%）、2万5,346t（0.8%）増加した。

図3 牛乳等向け及び乳製品向け処理量の推移（全国）

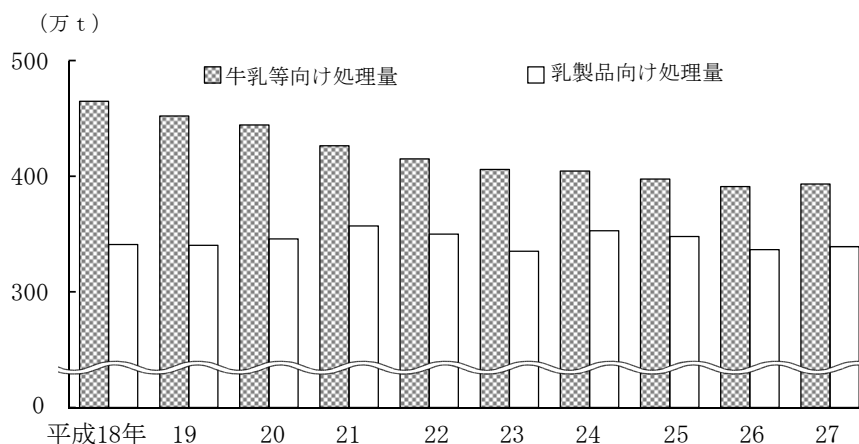


表3 生乳用途別処理量（全国）

単位：t

年次	生乳生産量	用途別処理量				
		牛乳等向け	乳製品向け		その他向け	欠減
			業務用向け			
平成26年	7,334,264	3,910,940	305,470	3,364,492	58,832	10,392
27	7,379,234	3,932,861	311,867	3,389,838	56,535	10,748
対前年比（%）	100.6	100.6	102.1	100.8	96.1	103.4

2 牛乳等生産量

(1) 飲用牛乳等生産量

－ 牛乳の生産量は0.6%増加 －

飲用牛乳等の生産量をみると、牛乳の生産量は300万5,406klで、前年に比べ1万6,664kl(0.6%)増加し、加工乳・成分調整牛乳の生産量は45万905klで、前年に比べ1万6,622kl(3.6%)減少した。

図4 牛乳及び加工乳・成分調整牛乳生産量の推移(全国)

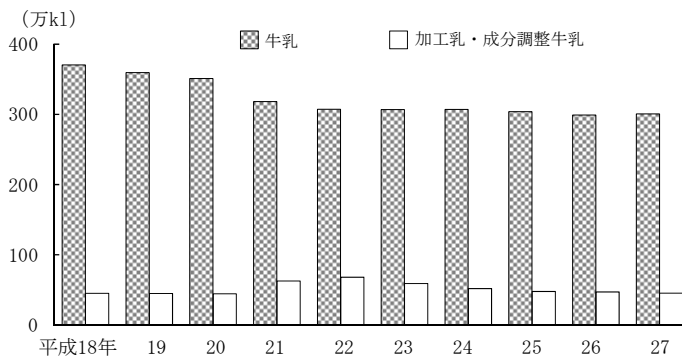


表4 飲用牛乳等生産量(全国)

単位：kl

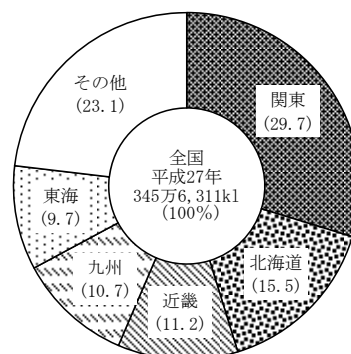
年次	飲用牛乳等					
	計	牛乳	業務用	加工乳・成分調整牛乳	業務用	成分調整牛乳
平成26年	3,456,269	2,988,742	284,777	467,527	38,910	346,348
27	3,456,311	3,005,406	290,258	450,905	40,535	346,660
対前年比(%)	100.0	100.6	101.9	96.4	104.2	100.1

(2) 全国農業地域別飲用牛乳等生産量

－ 関東の飲用牛乳等生産量シェアは29.7% －

全国農業地域別の飲用牛乳等生産量をみると、関東が102万6,757kl(全国に占める割合29.7%)で最も多く、次いで北海道が53万4,902kl(同15.5%)、近畿が38万7,777kl(同11.2%)の順となっている。

図5 飲用牛乳等生産量シェア(全国農業地域別)



注：割合の計が100%にならないのは、四捨五入によるものである(以下同じ)。

表5 飲用牛乳等生産量(全国農業地域別)

単位：kl

年次	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成26年	3,456,269	516,726	249,251	84,269	1,025,992	122,333	340,950	407,836	243,843	76,850	359,471	28,748
27	3,456,311	534,902	242,231	82,222	1,026,757	124,543	336,173	387,777	243,662	77,740	371,156	29,148
対前年比(%)	100.0	103.5	97.2	97.6	100.1	101.8	98.6	95.1	99.9	101.2	103.3	101.4

(3) 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量

－ 乳飲料の生産量は1.8%減少 －

乳飲料の生産量は130万6,315k1で、前年に比べ2万3,686k1(1.8%)減少し、はっ酵乳の生産量は105万4,932k1、乳酸菌飲料の生産量は14万8,340k1で、前年に比べそれぞれ5万3,643k1(5.4%)、2,700k1(1.9%)増加した。

図6 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量の推移(全国)

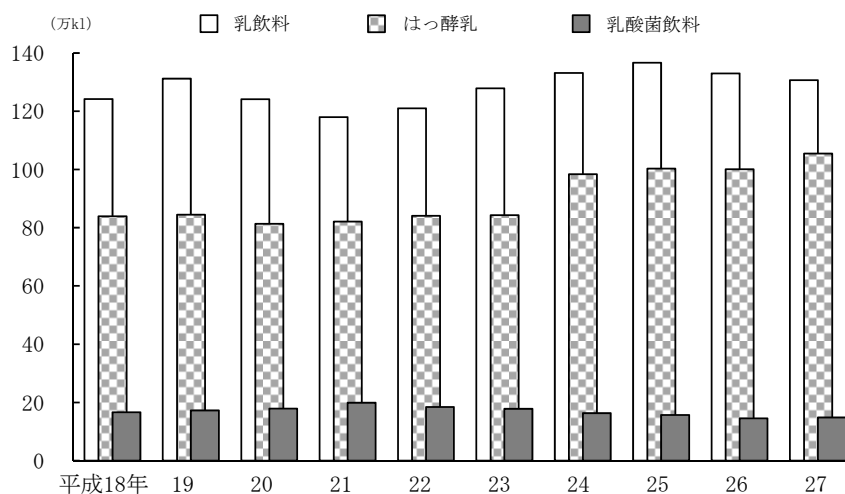


表6 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量(全国)

単位：k1

年次	乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
平成26年	1,330,001	1,001,289	145,640
27	1,306,315	1,054,932	148,340
対前年比(%)	98.2	105.4	101.9

3 乳製品生産量

－ チーズ、脱脂粉乳及びバター生産量はそれぞれ7.9%、7.3%、6.7%増加 －

主な乳製品の生産量をみると、チーズは14万5,338t、脱脂粉乳は12万8,610t、バターは6万4,810tで、前年に比べそれぞれ10,626t(7.9%)、8,766t(7.3%)、4,048t(6.7%)増加した。一方、クリームは11万3,796tで、前年に比べ3,115t(2.7%)減少した。

図7 主要乳製品の生産量の推移(全国)

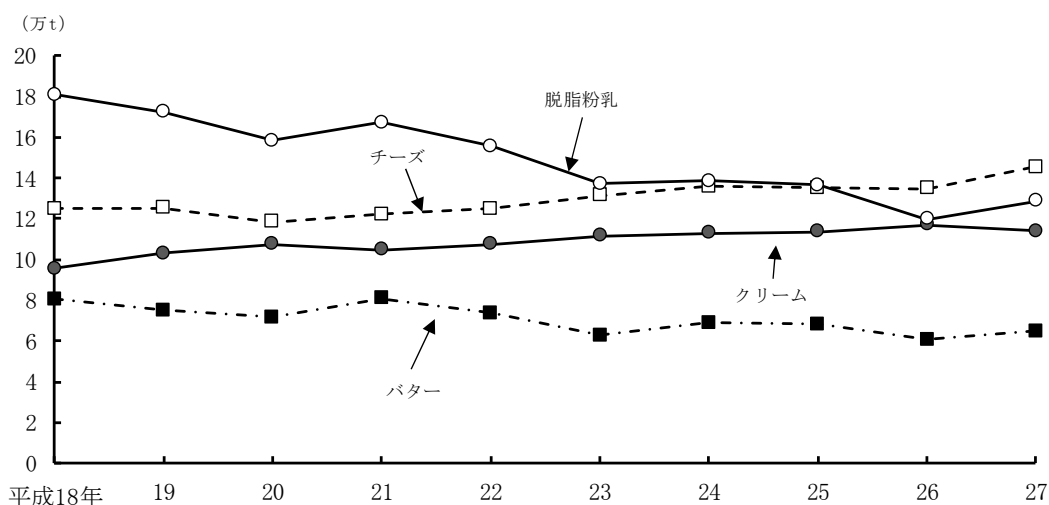


表7 乳製品生産量(全国)

年次	全粉乳	脱脂粉乳	調製粉乳	バター	クリーム
	t	t	t	t	t
平成26年	12,077	119,844	26,659	60,762	116,911
27	11,862	128,610	26,309	64,810	113,796
対前年比(%)	98.2	107.3	98.7	106.7	97.3

年次	チーズ	直接消費用 ナチュラルチーズ	加糖れん乳	無糖れん乳	脱脂加糖 れん乳	アイス クリーム
	t	t				
平成26年	134,713	22,846	33,829	677	4,661	144,724
27	145,338	21,942	34,722	635	4,402	134,093
対前年比(%)	107.9	96.0	102.6	93.8	94.4	92.7

4 牛乳処理場及び乳製品工場数

(1) 処理場・工場数

－ 生乳を処理した工場数は532工場 －

平成27年12月31日現在の牛乳処理場・乳製品工場数は590工場であった。

そのうち生乳を処理した工場数は532工場であり、生乳処理量が2t未満の牛乳処理場・乳製品工場が287工場、40t以上の牛乳処理場・乳製品工場が116工場となっている。

図8 生乳処理量規模別牛乳処理場・乳製品工場数の推移（全国）（12月31日現在）

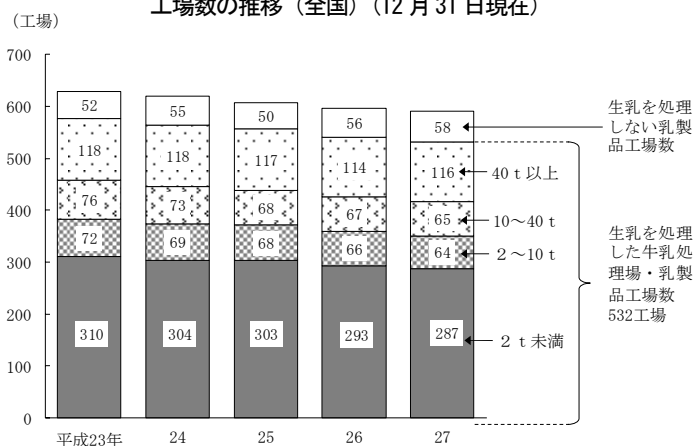


表8 牛乳処理場・乳製品工場数（全国）（12月31日現在）

単位：工場

年次	計	経営組織			12月の生乳処理量規模（1日当たり）						生乳を処理しない乳製品工場
		会社	農業協同組合	個人・その他	2t未満	2～4	4～10	10～20	20～40	40t以上	
平成26年	596	453	40	103	293	37	29	30	37	114	56
27	590	451	40	99	287	33	31	33	32	116	58
対前年差	△6	△2	0	△4	△6	△4	2	3	△5	2	2

(2) 全国農業地域別処理場・工場数

－ 関東の処理場・工場シェアは20.3% －

全国農業地域別の牛乳処理場・乳製品工場数をみると、関東が120工場（全国に占める割合20.3%）で最も多く、次いで北海道が111工場（同18.8%）、東北が65工場（同11.0%）の順となっている。

図9 牛乳処理場・乳製品工場シェア（全国農業地域別）（12月31日現在）

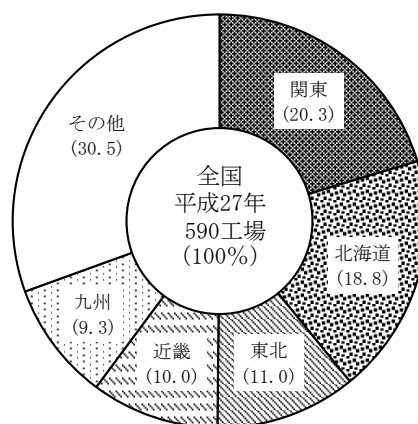


表9 牛乳処理場・乳製品工場数（全国農業地域別）（12月31日現在）

単位：工場

年次	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成26年	596	110	64	40	123	33	54	59	42	9	53	9
27	590	111	65	38	120	33	52	59	39	9	55	9
対前年差	△6	1	1	△2	△3	0	△2	0	△3	0	2	0

(3) 製造品目別処理場・工場数

ー 牛乳を製造した工場は 384 工場 ー

平成 27 年 1 月から 12 月に飲用牛乳等を製造した牛乳処理場・乳製品工場数は 385 工場で、うち牛乳を製造した工場数は 384 工場であった。

また、加工乳・成分調整牛乳を製造した工場数は 117 工場であり、乳飲料を製造した工場数は 230 工場であった。

乳製品を製造した工場数は 312 工場で、うちチーズを製造した工場数は 162 工場、乳脂肪分 8% 以上のアイスクリームを製造した工場数は 131 工場となっている。

表 10 飲用牛乳等及び乳飲料を製造した工場数（全国）（12 月 31 日現在）

単位：工場

年次	飲用牛乳等							乳飲料
	計	牛乳	加工乳・成分調整牛乳		業務用	成分調整牛乳		
			業務用	学校給食用				
平成26年	395	394	154	207	125	13	59	237
27	385	384	152	207	117	13	58	230
対前年差	△ 10	△ 10	△ 2	0	△ 8	0	△ 1	△ 7

注：内訳は各製品を製造した工場数であり、内訳と合計は一致しない（表 11 において同じ。）。

表 11 乳製品を製造した工場数（全国）（12 月 31 日現在）

単位：工場

年次	乳製品											乳脂肪分 8% 以上のアイスクリーム
	計	粉乳			バター	クリーム	チーズ	直接消費用ナチュラルチーズ	れん乳			
		全粉乳	脱脂粉乳	調製粉乳					加糖れん乳	無糖れん乳	脱脂加糖れん乳	
平成26年	314	11	28	5	67	77	156	132	22	5	11	136
27	312	11	28	5	69	72	162	135	21	5	11	131
対前年差	△ 2	0	0	0	2	△ 5	6	3	△ 1	0	0	△ 5

<参考>

－ 乳用牛の飼養動向 －

畜産統計調査（各年2月1日現在）

平成28年2月1日現在の乳用牛の飼養頭数は134万5千頭で、前年に比べ2万6千頭（1.9%）減少した。

図10 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移（全国）

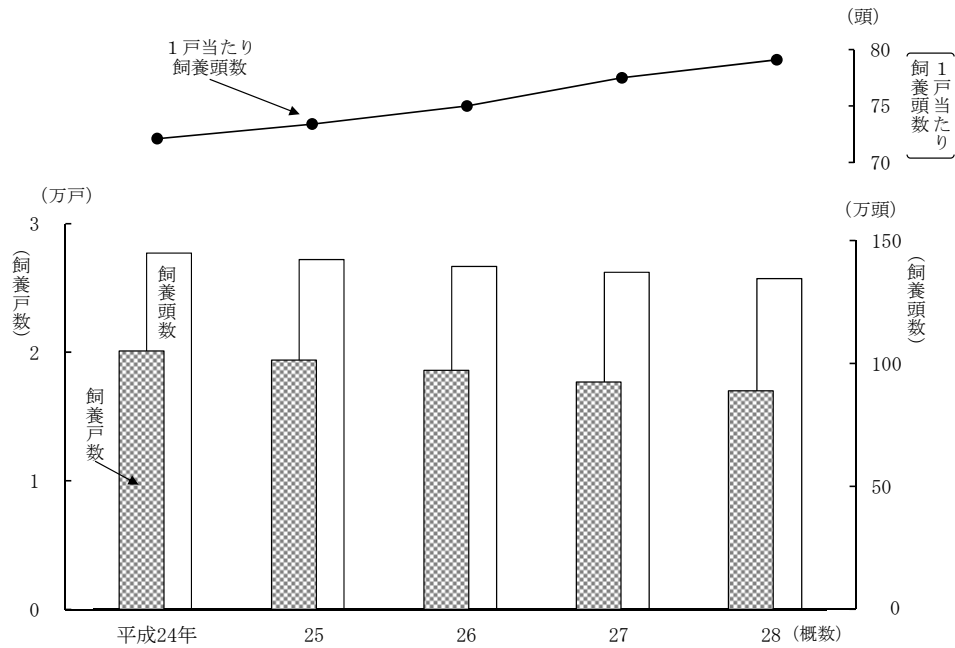


表12 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移（全国）

区分	単位	平成24年	25	26	27	28 (概数)
飼養戸数	戸	20,100	19,400	18,600	17,700	17,000
飼養頭数	頭	1,449,000	1,423,000	1,395,000	1,371,000	1,345,000
うち搾乳牛	頭	812,700	798,300	772,500	750,100	751,700
1戸当たり飼養頭数	頭	72.1	73.4	75.0	77.5	79.1